

連載

もう、悩まない！ 『石原健の HOTEL LOVERS』

6

voco 大阪セントラル
総支配人

宍倉 大地氏

第6回目のゲストは、2023年5月に開業したvoco 大阪セントラルの宍倉大地氏。同ホテルはIHG ホテルズ&リゾートが展開する「voco」ブランドの日本初進出ホテルである。石原氏と宍倉氏は2001年にヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルで共に働いていた。翌年には2002年日韓 W 杯の開催を控え、決勝の地となる横浜での機運も盛り上がっていた時のサッカー部での仲間でもあったという。



ので、それが原点だと思い大切にしています。ホテルの雰囲気を作るのは人、個人個人がいつも周りの人に興味を持って観察し声を掛けあう文化をつくっています。

若いスタッフには、とにかく色々な失敗をして、そこから経験値と知識を増やして欲しいです。人生は一生勉強なので、チャレンジをすることを辞めないでほしい。人が嫌がることや苦勞は買ってでもした方が本当の意味での未来への近道だと思います。若いうちは何でもできるし怖くないので、今やらなければ年を取ってからはやり辛いよ！と教えています。

石原 最後に今後のビジョンを聞かせてください。

宍倉 私はそもそも総支配人になるのが最終的な到達点ではなく、皆が働いてみたいと思えるホテルを作り上げていくことが今後の目標です。それには自分がいなくなった後も、継続できるチーム作りが最も大切だと思い、誰が来ても揺るがない体制、土台作りをしたいと日々精進しております。

石原 まだ46歳と若いGMですし、これから新たなチャレンジも大いにありかと思うので、ますますのご活躍を楽しみにしています。



voco 大阪セントラル
総支配人
宍倉 大地氏

学生時代に学んだホテル実習がきっかけで、ホテル業界に就職

石原 宍倉さんとは2001年にヨコハマ グランド インターコンチネンタルホテルで共に働き、20年以上の付き合いになりますね。さっそくですが、最初にホテリエになったきっかけを教えてください。

宍倉 英語が喋れたら、今後かならず活かせるだろうと考え、高校からイギリスに留学しました。大

学（Thames Valley University）のレジャー & ホスピタリティ学科時代に、単位を取るためにホテルで1年間の実習をしたことがあり、今でも一番好きなホテルである「Cliveden Hotel」のレセプションを務めました。さまざまな階級の人にお会いでき、お金の使い方を知るとともに、フットマンとして、ドア、ベル、バトラー業務の中で人々と触れ合っていて、ホテルの面白さに目覚め、就職もそこに決めました。しかし、ビザが降りずに帰国せざるを得なくなり、改めて日本のホテルでの就職活動を行ないました。

石原 それで横浜のインターコンチネンタルに入社されたのですね。初めての就職で海外のホテルとの違いや大変だったことは何でしょうか。

宍倉 日本のホテルはシステムやマニュアルがしっかりしていて、海外とのギャップを感じました。またベル・フロントからセールスに異動した際に、ホテルを背負って代表として営業をすることが大変でしたが、当時の先輩である鈴木紫乃さん

との同行セールスで新たな発見や駆け引きなどを楽しく学び、パシフィコ横浜で開催された国際会議「APEC 2010」にも携わりました。さらに料飲部も経験し、このホテルでの14年間で私の価値観の基本になっており、その後もずっとお世話になった十楚晃昌元総支配人にも、とても感謝しております。

人の成長を手助けすることは、自身の成長にもつながる

石原 そこから東京・神戸・岡山・大阪と、同じインターコンチネンタルホテルグループの中で着実にステップアップされてきました。ブランドもクラウンプラザやvocoと変わってきていますが、常に心掛けていることを教えてください。

宍倉 幼いころに兄から向上心がないと言われたことがあり、学びたい物のみしかやらなかった自分を変えて、失敗しても良いのでチャレンジする、そして同じ失敗はしないようにすること、自分がわからない事を人に振るのではなく、自分で調べ

たり聞いたりしてできることを増やしていくようにしており、さらにコミュニケーションを取るということを心掛けています。

東京時代にもマークス・プラッツァー GM が紹介くださった次のステップが、料飲副部長から副総支配人という大きなステップアップであったため、未だ30代の自分には時期早々かとも思いましたが、「断ってもよいが、失敗しても経験値があがるし君のプラスにもなる」と、とても勇気づけられる言葉をいただき、一歩を踏み出しました。

神戸では外国人のGMからさまざまな知識を学び、自分で仕事を探すという勉強を行なった中で、人が大事、一番は人を育てること、成長の手助けをすることだと気がきました。そのため初めてGMとなった岡山では、コロナになっても人を守ることに注力し、一人も切らずに給料も下げず、モチベーションを下げないようにと動きました。現在の大阪は初の開業準備室からの立ち上げを経験し、先人が引いたレールの上を走る

のではなく、一からつくる事の大変さを痛感しながら、サスティナブルを打ち出した方向性を持つホテルのオープンに興味とやりがいを感じて走りました。

そんな中でストレスを溜め込まないことも大事なので、現在は10歳となった息子と遊ぶ時間やスポーツ観戦、最近はゴルフも始めました。

石原 チーム作りで大切にしていることと、これからの若いホテリエに伝えたいことはいかがでしょうか。

宍倉 人のことが気づかえるスタッフであってほしい。仲間を気づけなかったらお客さまに本当の意味で気づかえることがないと考えている



株式会社ホスピタリティデザイン 横浜
代表取締役
石原 健

Profile > 桜美林大学経済学部卒業。日本ホテルスクール卒業。ホテル産業経営塾卒塾（第一期生）。ホテル センチュリー ハイアット勤務後、1989年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に第1期生として入社。国内外からのVIP対応等で、4度にわたる皇室接遇担当の栄誉も授かる。ウェスティンホテル仙台を経て、2014年、(株)ホスピタリティデザイン 横浜を設立し、代表取締役。厚生労働省事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、HSN 会顧問、産業能率大学兼任教員など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。



連載 SERIES

連載 SERIES